



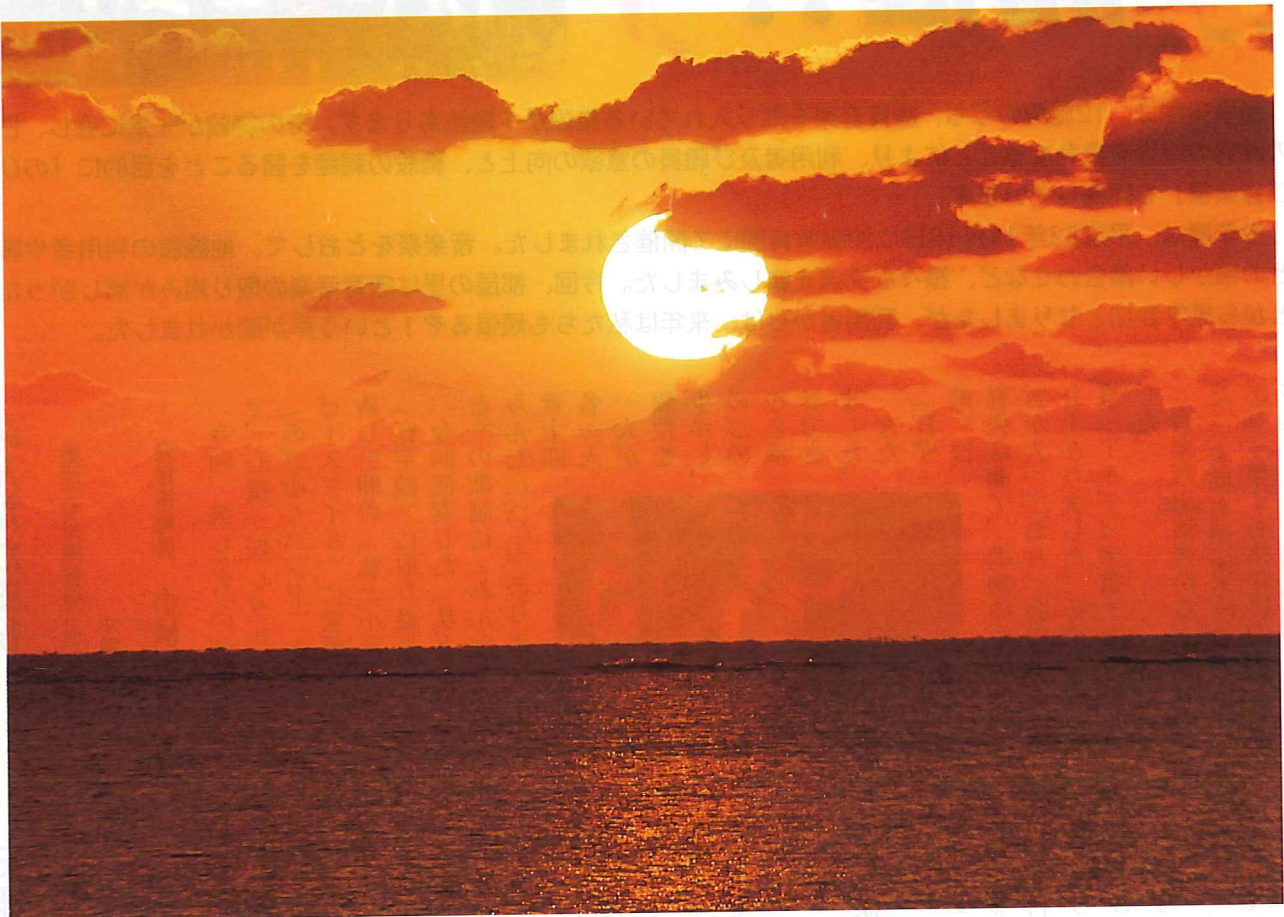
電子メールアドレス : o.fukusi@okinawa-j.jp

第 55 号

編集・発行
 社会福祉法人
沖縄県社会福祉事業団

〒903-0804 那覇市首里石嶺町4丁目373番地1
 TEL 098-884-3173 (代)
 FAX 098-882-5688

ホームページ : <http://www.okinawa-j.jp/>



(事務局：宮城貴子 父 撮影)



年頭のあいさつ

理事長 **花城可長**
はなしろ かちぢょう

明けましておめでとうございます。役職員の皆様には、希望に満ちた新春を迎えられたことお喜び申し上げます。

今年の干支は卯であり、跳ねることが得意なうさぎのイメージどおり飛躍の年になってほしいと期待するものです。

当事業団も経営五か年計画が四年目を迎え、昨年は事務局と沖縄療育園がISO9001の認証を取得し、利用者サービスの質の向上を図るためより一層の取り組みを始めました。また、老朽施設の漲水学園やあけぼの学園の改築にも着手するなど、当初の計画はこれまで順調に推移してきています。しかしながら今日、社会環境の変化に伴い多様化する福祉ニーズをどう把握し、それに対応していくか、当事業団への社会的要請も今後色々な面で増加してくるものと思います。質の高い利用者主体の福祉サービスをどのように提供できるか常に問われています。

地域に貢献し、地域の方々から信頼される事業団を目指して、今年も皆様の力を借りて一段と飛躍の年にしたいと願っています。

年の初めにあたり、利用者の方々及び役員とご家族の皆様が健やかで幸せな一年でありますよう、心より祈念申し上げます、ご挨拶といたします。

のび音楽祭」 開催!!



当事業団は、12施設のうち、療育音楽を取り入れている施設が7施設あります。その施設が一堂に会し、日頃の練習の成果を発表することにより、利用者及び職員の意欲の向上と、施設の親睦を図ることを目的に「のび音楽祭」を開催しています。

今年度は、平成22年11月18日に沖縄療育園にて開催されました。音楽祭をとおして、他施設の利用者や職員との懐かしい顔合わせなど、様々な交流を楽しみました。今回、都屋の里は療育音楽の取り組みが難しかったことから見学参加となりましたが、利用者からは、来年は私たちも頑張るぞ！という声が聞かれました。

みんなが主役

重症心身障害児(者)施設
沖縄療育園

児童指導員 小橋川 博康
こはしがわ ひろやす

今回、久しぶりの音楽祭なので、心機一転しグループ名を「のびゆくバンド」から「ハッピースマイル」に変更し、曲も新しい曲の「私と小鳥と鈴と」「紅芋娘」に取り組みました。今回演奏した「私と小鳥と鈴と」の歌詞に「みんなちがってみんないい」があります。出演者十四名一人一人が個性を生かし、のびのびと演奏できました。また、「紅芋娘」は、



軽快な曲で、歌詞の中に沖縄方言が入っており、会場全体が盛り上がりました。その結果、見事「アイデア賞」を受賞しました。
音楽祭出演者から「楽しかった」「次回も頑張る」との感想があり、早くも来年に向けて意欲が感じられました。

三年ぶりの緊張

障害者支援施設 北嶺学園

介護員 大城 悟
おしろ さとる

三年ぶりの開催とあって当園では参加する利用者も一週間前から胸をワクワクさせとても楽しみにしていました。月二回の練習にもみんな一生懸命頑張っていました。



本番当日、ソワソワしながら利用者も職員も緊張していましたが、日頃の練習の成果が発揮され、とても楽しく有意義な音楽祭になりました。また利用者にとっては、以前お世話になった職員や他施設の利用者に会える事も楽しみの一つになっている様です。
帰りの車中で参加した利用者から「来年もまたがんばりたい！」「もっとやりたい、楽しかった」など喜びの声が上がり、思い出に残るいい日になりました。

練習の成果を発揮

救護施設 よみたん救護園

介護員 島袋 美和子
しまぶくろ みわこ

去年、一昨年と、感染症の流行で音楽祭が中止となり、残念な思いをしましたが、当園では講師の上田先生と共に、週二回の練習を欠かさず行ってきました。演奏が上手いかない日もありましたが、みんなで励まし合い、当日は全員参加で臨むことができました。



会場では、発声練習や各施設の発表曲に合わせダンスを楽しむなど、ウォーミングアップも万全。
いざ本番、初めにゆつくりした曲、次はアツプテンポの曲での楽器演奏に挑戦。
機敏さと可愛らしさを見事に表現する事ができ、なんと「キレイ賞」を受賞し、利用者も大満足の結果となりました。

みんなで集う! 第7回「のび」



ハプニングにも負けず

介護・特別養護老人ホーム 名護厚生園
 介護員 崎浜 千春

毎月第二・第四木曜日に「療育音楽」を行っています。
 呼吸法に始まり、様々な歌を唄ったり楽器を使って曲に合わせてリズムをとり、毎回の締めは手話で終わっています。
 今回はハプニングがあり、会場到着が遅れましたが、到着するやいなや、衣装の準備と、慌ただしく舞台へとあがりギリギリの状態の間合うことができました。発表は「ていんさぐの花」を五つの楽器を用いて演奏し、二曲目は「ふるさと」を手話で行いました。ハプニングに見舞われましたが、楽しく終えることができ、みごと頑張ったで賞」をもらう事ができました。今年、他の施設の方々の発表を見ることができたのは残念でしたが、帰りのバスの中では、皆が疲れながらも「楽しかった、また行こうね!!」などと沢山の声がありました。



これから利用者とも職員が一緒に笑顔で楽しめる療育音楽を創っていきたくと療育音楽メンバー一同考えています。

笑顔で交流

介護・特別養護老人ホーム 具志川厚生園
 介護員 金城 奈美

当施設では、毎週水曜日の午後四時より講師を招いて療育音楽の活動に取り組んでいます。楽器は鈴・タンバリン・カステネットを使用し、曲は利用者の年代や季節に合わせたものを取り入れて行っています。
 「のびのび音楽祭」では、特養利用者と養護利用者の合同で取り組む事で、普段なかなか関わらない利用者同士での交流を図る事ができました。
 本番を迎え、最初は利用者緊張の様子が見られましたが、後半に進むにつれ練習通りに楽器を演奏する姿が見られました。



終了後「来年も行きたい」と利用者の言葉を聞いて余暇活動を通じ、利用者の意欲と関心を見つけた事を嬉しく思います。

音楽祭を見学して

身体障害者療護施設 都屋の里
 天願 哲康

参加していたみなさんは楽しんで、とても頑張っていた。
 次は、都屋の里も頑張ってみるんで参加したい。僕も頑張ります。

身体障害者療護施設 都屋の里
 岸本 育美

たくさん参加している人がいて良かった。以前と同じく、いろんな音楽が聴けて面白かった。来年は、私たちもたくさん練習して、いい演奏ができるように頑張りたいです。



第三十五回 全国救護施設研究大会

救護施設 よみたん救護園

園長 大湾 朝信



「全国大会」は無事に終えることが出来ました。この大会に関わった関係各位のご協力に對して、心より感謝を申し上げます。

沖繩で初めて開催された第三十五回の全国大会は、一年余りの準備期間を要し、去る十月二十八日から二十九日まで実施されました。台風接近の二十八日午前は、永年勤続功労者表彰に始まり、基調報告と行政説明が行われ、午後は五つの分科会に分かれ、活発な議論が行われました。



夕方は、懇親会が行われ「台風で皆さまを迎えまして」の挨拶に始まり、郷土料理・芸能そして泡盛で全国の四百三十三名の方々の交流会が行われました。

二十九日は、関係者の願いが叶い、天気も回復し、午前の特別講演と記念講演等が行われ全日程が終了しました。

平成二十二年度 全国社会福祉事業団協議会 九州ブロック職員研修報告

事務局 企画課

事務員 宮城 貴子

平成二十二年度全国社会福祉事業団協議会九州ブロック職員研修会が平成二十二年十月七日から八日、「自立への道」事業団にもとめられるもの」を大会テーマに、大分県で開催されました。大会には、九州の各事業団職員等、八十人余の参加がありました。

研修会では、四分科会に分かれてグループ討議等が行われました。当事業団からは、事務局「財政基盤の安定（自立経営を目指して）」、北嶺学園「新体系移行の取り組み」について発表を行いました。発表者がそれぞれの施設の現状と課題を提起し、今後の施設運営や利用者支援を行うにあたっての議論や情報交換が行われました。二日目には、「笑って元気 必要とされる喜び」をテーマに、矢野大和氏による講演が行われました。今大会では、主催した大分県社会福祉事業団の尽力で大会運営がスムーズに行われていました。次年度には、沖繩県で研修会が開催されます。更に実り多い大会となるよう、九州の事業団関係者の皆様を温かくお迎えしたいと思っております。

施設長リレーエッセイ

凝りない私



養護・特別養護老人ホーム 具志川厚生園

園長 比嘉 憲次

老後のライフスタイルとして趣味を持つことで人生をよりよいものにした。現在の趣味は、釣りとゴルフであるが、何にでも没頭してしまうタイプで、これまで、ボウリング、将棋、麻雀など自分でも多趣味であると思っている。

ある先輩は趣味は浅く、広くをモットーに自負する。でもこの先輩も趣味は多いがかなりの凝り性であることは間違いない。釣りの面白さを教えてくれたのもその先輩がきっかけで始めた。今では妻もあきれるほど釣りに夢中である。釣りと書くと沖釣りの方であるが、乗り合いで釣りに行く日が待ち遠しくて仕方がない。最近では、日程を組んでも天候不良で釣りがキャンセルになることが多い。時々酒座での友人仲間とゴルフ談義や釣りの話で盛り上がりストレス解消しているが、酒を飲む機会が増えるたびに持病の痛風が悩みの種である。休みの日などは釣具屋にぶらっと立ち寄り衝動買いをするこ



とで気持ちをお紛らわしている。もう一つの趣味であるゴルフも釣りに没頭するあまり、ゴルフの成績も思うように振るわなくなってきた。ゴルフ仲間の先輩は、同じミスを繰り返すのは学習能力がないと叱咤激励する。我も負けず嫌いな面があり、歯がゆい気持ちはあるが今は我慢の時である。ライバル達に遅れを取らないように頑張っているつもりだが、頭と体が言うことを利いてくれないため練習場へも足が向かない。でも老け込むにはまだ早いで差し当たっては、イメージトレーニングでもしてライバル達に差をつけたいと密かに考えている。

これまでを振り返って (定年退職者のあいさつ)

婦人保護施設 うるま婦人寮

寮長 小渡 利枝子



福祉の中でも、直接人に
関わる仕事は施設で働きた
いと、創設間もない当事業
団の具志川厚生園生活指導
員の職に就いたのが、社会人としてのス
タートでした。あれから早三十八年、仕事
人としてのゴールを迎えました。その間、
職場の先輩・同僚・施設の利用者等との関
わりの中で社会人として育てられ、人間的
にも成熟させてもらった感があります。心
より深く感謝致しております。これからは
私の人生の最終章のスタート。今までの仕
事を通して得た財産・達成感を糧に歩ん
でいきたいと思いが日増しに募る昨今です。
最後に、当事業団の益々の充実・発展と
職員の皆様のご活躍を祈念申し上げ退職の
挨拶と致します。

養護・特別養護老人ホーム 八重山厚生園

園長 根間 武男



「君、この仕事大丈夫か
ね」、採用試験での面接官
の一言。事業団職員として
第一歩を踏み出した事もあ
り、鮮明に記憶している。その意味では都
屋の里は忘れられない職場の一つ。様々な
障害を持った方々に接し、学び学ばされた
ことが多々あった。
これまで数多くの職場で諸先輩方からご
指導頂いたが、小生の思い出の一つに事務局
で二十周年記念式典、記念誌発行を企画し
たこと。誇りに思い今でも懐かしく感じる。

光陰矢の如し、事業団と共に歩ませて頂
いた三十年余り、退職に当たり、ますます
のご発展を祈念します。

感謝！

救護施設 よみたん救護園

管理課長 狩保 富男



事業団採用から三十一年、
聴覚障害児福祉センター、
都屋の里、療育園、名護厚
生園、宮古厚生園、具志川
厚生園の勤務を経て、この度、よみたん救護
園で定年を迎えることとなりました。
在任中、私にとつてのエポックは、介護
保険制度スタートに関われたことです。
「民間に追いつけ追い越せ」のかけ声の下、
具志川厚生園スタッフ皆で「選ばれる施設
づくり」を目指し、時には激論を交わしな
がら、取り組んだことを思い出します。
ここに至つて、改めて、事業団関係者、
職員の皆様にご感謝申し上げます。皆様のま
すますのご活躍とご健勝、併せて、事業団
の一層のご発展、ご繁栄をご祈念申し上げ
ます。

養護・特別養護老人ホーム 名護厚生園

副園長 譜久山 昇



この度、定年を迎えるこ
とになりました。昭和五十
一年四月に沖繩療育園に採
用になり、その後、婦人保
護施設、身体障害者施設、老人福祉施設の
名護厚生園と永年各々の福祉施設に携われ

たことに対して、多くの上司、よき先輩、
同僚に恵まれ、また、利用者やご家族の皆
様方及び地域、関係機関の方々のご指導の
お陰と心から感謝致しております。
これからも利用者の安全、安心、快適な
生活及び職員の皆様のご健康とご活躍、社
会福祉事業団の今後のご発展を祈念いたし
ます。

重症心身障害児(者)施設 沖繩療育園

理学療法士 屋比久 眞弓



肢体不自由児施設で働く
中で、より重度・重症児に関
わりたいと思うようになり、
沖繩療育園に転職してきた。
驚いたのは、その変形・拘縮の強い事、
そして感動したのは、身体はきついはずな
のに声かけや触れる事で笑顔を見せる人々
であった。その心とろけるような柔らかな
笑顔があったればこそ十九年この施設で働
けたと思う。
利用者の全身から伝わってくる言葉(表
情や仕草)に耳を傾ければ、施設はおのず
と良い方向に進むと思う。沖繩療育園が、
利用者も職員も笑顔であふれる場であり続
ける事を願っている。

知的障害児施設 漲水学園

児童指導員 本村 一子



昭和四十七年沖繩県立漲
水学園複合施設の保育士と
して採用されました。当時
短大を卒業したばかりの私

にとつては、期待と不安を交差させながら
の業務開始でした。

あれから三十九年が過ぎ、まさに光陰矢
の如しで児童養護・知的障害児(者)など
様々な施設で業務を重ね、給与もドルから
円へとかわりました。純粹で汚れない心
を持つ多くの園児や利用者の方々に触れあ
いながら、自分自身も成長できたと感謝で
いっぱいです。今後は、福祉の現場で学ん
だ経験を生かし、一市民として尽力したい
と考えます。

最後に、本事業団がこれからも、利用者
の皆様へ選ばれる、喜ばれる施設として更なる
発展を遂げられることを願ひ、職員の皆
様のご活躍心より祈念申し上げます。

救護施設 いしみね救護園

介護員 座安 正勝



昭和五十八年十一月、都
屋の里の採用を皮切りに、
沖繩療育園・いしみね救護
園・具志川厚生園・よみた
ん救護園・いしみね救護園を最後に定年を
迎える事になりました。
それぞれの勤務先では、人生経験豊かな
利用者や職員から色々なことを学び経験さ
せて頂き感謝の気持ちでいっぱいです。老
人施設の勤務は介護保険制度のスタートの
年に関わらせてもらい大変貴重な体験をし
たのが脳裏に焼き付いています。

これまで頑張つてきたのも多くの上司や先
輩、同僚に支えて頂いた事に感謝致します。

退職するにあたり、事業団がさらなる発
展と皆様方のご活躍を心から期待すると共
に、選ばれる施設を目指して頑張つて下さい。

読谷まつりに参加して

救護施設 よみたん救護園

生活指導員 名嘉 克文



第三十六回の読谷まつりが、去る十一月六日(土)〜七日(日)の二日間、読谷村運動広場で開催されました。

当園からも、毎年、日頃の作業訓練等の披露の場として、まつりに参加し、展示・販売を行っています。今年も夏頃から、利用者の方から「今年の読谷まつりはいつなの?」とまつりの期日を気にする声が聞こえ、利用者の方のまつりへの意欲が伝わってきました。

今年の読谷まつりは、二日間共雨に祟られ、作品がたくさん売れ残る結果となりました。しかし、利用者の方からは「来年は、もっと頑張るサー」と、早くも来年への意気込みが聞こえました。



施設だより

地域交流グラウンドゴルフ大会

養護・特別養護老人ホーム 名護厚生園

生活相談員 儀武 将明



去る十二月三日に名護厚生園の芝生グラウンドにて、地域の宮里老人会を招き、施設から三十名近くが参加され毎年恒例の地域交流グラウンドゴルフ大会及び親睦会が行われました。

前日まで天候が心配されましたが、利用者の方の皆さんの思いが届いたのか、当日は天候に恵まれ利用者、老人会、職員の方がそれぞれボールを打ち、ユンタクをしながら、とても和やかな雰囲気でした。あつという間に時間が過ぎていきました。

親睦会では、オードブルをみんなでいただきながら、カラオケや成績発表を行いました。宮里老人会会長より「今年で十回目の参加だが、今回は多くの利用者の笑顔が見られて、これまでで一番有意義な交流会だった。」とお褒めの言葉を頂きました。また、利用者の方々も満面の笑みで「また今度が楽しみだ、待ち遠しいな。」と満足されていました。今後利用者の方々に楽しんで生活に潤いを与えるお手伝いを行っていきたいと思います。

手芸は私の楽しみ

養護・特別養護老人ホーム 具志川厚生園

生活相談員 崎原 愛



当園にて毎日手芸作りに励んでいる利用者を紹介します。

知花米子様、昭和五年生まれ八十歳の方です。おしぼりたたみの作業を始め新聞紙を利用したみかん箱、マフラー、棚飾り等、たくさん作品を創り上げています。

九月に行われた幼稚園児との交流会・納涼祭ではペットボトルのふたを利用したミニパーランクーを飾り、雰囲気作りを行いました。皆さんの参加者の皆さまを楽ませました。



若い頃には愛知県軍需工場で腹帯手袋作りの仕事をきつかけに器用な手先を生かし現在の手工芸作りに至っているそうです。「今度は何を作ろうかな」と作品作りを楽しみ、小さな子供達や家族にプレゼントすることを何よりもうれしいと話す笑顔がとても印象的です。

船で渡ったふるさと訪問

養護・特別養護老人ホーム 宮古厚生園

介護主任 長濱 祐子



十一月十八日、初めて海を渡つての伊良部島へのふるさと訪問。

天気はくもりのち晴れ。少しの波はあつたもののカーフェリーも快調に進み所要時間二十分程度で到着。「もう着いたよー」の声かけに、「あれー?なんで船に乗らんのに着いたかあー」と不思議そうな顔。カーフェリーを理解できないまま佐良浜漁港に降りるなり「ああー、久しぶりだあ」と歓声をあげた車椅子のAさん。

港で迎えた兄夫婦に迎えられて嬉しそうに自宅に帰るKさん。家の前で子供や親戚の方々に迎えられ号泣するTさん。「母ちゃん、おかえり」の言葉に職員も胸が熱くなった瞬間。家族との団欒をすませた二時間後、私たちに見せた笑顔は特別アパラギ(美人)な笑顔でした。「今日は一番幸せ」の気持ちいっぱい帰路につきました。



農作業の風景について 利用者様に聞く

障害者支援施設 北嶺学園

生活支援員 田端 健

普段日課として農耕園芸で頑張っている利用者様に色々質問してみました。

Q 農耕園芸は楽しいですか？

まだどういった事が楽しいですか？

・「楽しい。野菜がでるのが面白い」

男性 宮城さん

・「楽しいです。みんなと一緒に楽しくできる所が良い」

女性 金城さん

・「楽しい。野菜と唐辛子、人参を取るの面白い。毎日出たい」

女性 國頭さん

・「スイカ・みかん・リンゴ・梨」

男性 平良さん

・「何でも良い」

女性 親泊さん

Q 何か一言あれば

お願いします。

・「これからも頑張る」

男性 中原さん

・「いっぱい野菜作って食べたいです」

女性 狩俣さん

・「畑がんばるぞー」

男性 小波津さん

・「寒いけど頑張る」

男性 砂川さん

質問した利用者様からは楽しい、といった言葉も聞かれとても日課の農耕園芸を楽しんでいる事が伺えます。



第二十二回 ぎのわん車椅子 マラソン大会

身体障害者療護施設 都屋の里

介護員 真謝 孝雄

十二月十二日(日) 宜野湾市の海浜公園 歓海門前にてぎのわん車椅子マラソンが開催され、都屋の里より與久田菜さんが天願哲康さん、岸本育美さんが出場しました。

(天願さん)「沿道の方が名前を呼んで声援してくれたので、とても嬉しかった。」
(岸本さん)「今回で二十回目の参加だった。あまり練習してなかったたので、来年は練習を重ねて出場したい。」

また一・五キロトリムマラソン部門に出場した與久田さんが見事一位になりました。「今まで最高二位だったので一位をとれて良かった。引退の花道を飾る事ができた。」と冗談交じりに話され、帰園後も疲れを見せず終始にこやかに過ごされていました。



また一・五キロトリムマラソン部門に出場した與久田さんが見事一位になりました。「今まで最高二位だったので一位をとれて良かった。引退の花道を飾る事ができた。」と冗談交じりに話され、帰園後も疲れを見せず終始にこやかに過ごされていました。

栄養士の おすすめレシピ

そべぽーぽー

救護施設よみたん救護園 栄養士 稲福 直子



| 材料名 | 分量 (約25本分) |
|-------------|----------------|
| 1. 小麦粉 | 1 kg |
| 2. カネミヤ黒糖粉 | 650 g ~ 700 g |
| 3. 牛乳 | 180cc ~ 200cc |
| 4. タマゴ Mサイズ | 8 個 |
| 5. ふくらし粉 | 40 g (冠印) |
| 6. 油 | 3/4カップ (180cc) |

| 1本あたりの栄養価 | | | |
|-----------|---------|-------|------|
| エネルギー | 294kcal | 蛋白質 | 5.4g |
| 脂 肪 | 6.7 g | カルシウム | 81mg |

- <作り方>
- ① タマゴをボールに入れ、ミキサーで泡立てる。
 - ② 小麦粉、ふくらし粉をふるいにかける。
 - ③ 粉黒糖を水 4 cp (180cc × 4) で砂糖水を作る。出来れば、前日に作っておく。
 - ④ ①の中に③を混ぜる。砂糖水 6 杯 (4 cp + 水 2 cp)
 - ⑤ ④の中に②を入れて混ぜる。
 - ⑥ 牛乳と油を入れて混ぜる。(20分~30分寝かせる)
 - ⑦ 専用のフライパンで中火で、油を引かずにホットケーキを焼く要領で焼き、生地がぷつぷつと穴が開いてきたらひっくり返します。
 - ⑧ 焼き上がると、まるめて完成。

(うわさ話)
ふつう、ぽーぽーというと、中に味噌を入れて巻いたものを言いますが、そべぽーぽーは、味噌の入らない甘いチンピン風で、大きさも直径20cm、楚辺地域に昔から伝わる伝統あるお菓子で、旧暦4月のアブシバレー(豊作祈願)の時などに作られたそうです。
読谷村の楚辺の嫁は、そべぽーぽーを焼けないと一人前とはいえないと昔から言われ、各家庭で各自のレシピがあり、専用のフライパンを必ず持っているらしい!!

優勝旗、海を渡る!

平成22年度 児童養護施設野球大会



去る七月二十二日、平成二十二年児童養護施設野球大会において、二十四年ぶり八回目の優勝を果たすことができました。また、二十四年ぶりに優勝旗が海を渡って宮古島に来た事を本当に嬉しく思います。

二ヶ月間の練習に、子ども達は一生懸命取り組んできました。練習では、誰かが失敗すると、文句を言ってチームの雰囲気が悪くなりました。しかし、試合を重ねていくうちにベンチからも声が出て、チームが変わっていききました。一回戦は、コールドゲーム、二回戦は接戦を制し、決勝戦では、ヒヤヒヤする試合展開に職員は、ただただ祈るばかり。監督からの「楽しくやろう」との声に、勝ち進むたびに子ども達は、楽しんで野球をしていました。中でも、久貝投手の力投、連戦での疲れを見せず、力いっぱい投げ切りました。野崎君のヒット六本は、チームに大きく貢献しました。人数が足りずにチームが編成できず、参加できない時期が十年

間ほど続いた事もありました。県内で一番小さな施設のチームが優勝するとは、誰もが予想していなかったでしょう。学園生活では見せない顔つきで、一試合一試合を重ねることに子ども達は、本当に大きく成長しているように感じました。また、子ども達はこの優勝で大きな自信につながったと思います。



八月十九日に行われた九州大会では、惜しくも一回戦で敗れたものの、九州の地で、沖縄県代表としてプレーできた事は、これからの子ども達の財産となり、いい経験になったと思います。最後に、大会関係者の皆様、職員の皆様、支えて下さった皆様、本当にありがとうございました。来年度も、子ども達のさらなる活躍に期待したいです。



児童養護施設 漲水学園

児童指導員

黒島 くらしま

昌樹 まさき

八重山厚生園訪問介護事業所の紹介

サービス提供責任者 砥板 せいこ

八重山厚生園は、市街地から離れた静かな丘の上にあります。良い日は、竹富島・西表島・小浜島等周辺離島が一望できる風光明媚な場所に位置します。平成十九年に訪問介護事業所が開設され、現在嘱託職員三名、登録ヘルパー九名で養護老人ホーム入所者三十名の内十五名、在宅からの利用者二十三名が利用しており、入院や短期入所等により変動はありますが、徐々に利用者数も増加してきています。

訪問介護では、困難なケースに関わる事もあり支援を継続しているうちに、利用者様と真剣に向き合う事で少しずつ受け入れられ、また利用者様から多くの事を教えられるようになります。私たちの仕事は、常に利用者様から見られ、評価されている事を肌で感じ、一人一人異なるケースに関わ

まだまだ未熟な事業所ではありますが、今後も誠実をモットーに地元根ざしたサービスを提供するようにスタッフ一同頑張っていきたいと思っております。



営業日・営業時間
サービス受付 月～金
(8:30～17:00)
利用者へのサービスは、
年中無休 0:00～24:00

